

西地域 史跡・文化財 解説



①小石塚古墳(会所沢)



サンライフ裏の西斜面に一基残存。「あそこに昔、火の雨が降ってきた時逃げこむ所やったちゅう火塚がある。金の壺でも入っとるかもしれん」と明治の末、千旦林の青年達が掘ると須恵器・刀などが出土。小石塚の「南無妙法蓮華経」の碑は、この古墳の蓋であったと言われている。

②青木稲荷古墳(青木)



青木稲荷本殿裏にある。直径10m高さ1.5mの小円墳。古墳の横穴に狐が住み着いて狐塚と言われた。狐の縁でお稲荷様が祀られたりすることはよくあることで、中津高校南の古墳にも、旭ヶ丘稲荷が祀られている。足立東一氏の話では、真っ白な老狐がいたという。

③若宮古墳(駒場尾崎)



直径約30m・高さ3mの円墳。「この古墳の墓守が盗掘して打ち首になったげな。その祟りを鎮めるために祀らしたげな。勾玉が出たげな」などの伝承がある。中央部に石の祠があるが、中津川宿本陣市岡家の祖先が、久々利からこの地に移った時に、廟所を移したものとされている。

④一里塚(上宿)



徳川家康が江戸日本橋を起点として、主要街道の1里ごとに5間(約9m)四方の塚を築かせ、えのきや松を植え旅行者に便宜を与えた。上宿の一里塚は、こでのき坂を上がって10mほど行った所に西方一方のみが復元されている。江戸日本橋から85番目になる。

⑤小石塚立場跡(会所沢)



立場とは、江戸時代、街道の宿駅の出入口に設けられた休息所。旅人、人足などが休憩したが、宿泊は禁じられていた。小石塚には立場の茶屋があり、村境の杭が道の両側に二本ずつあった。道を挟んで両側に茶屋があった。木曾家の有力武将の嵐讃岐の碑の手前にある。

⑥馬頭観世音(石屋坂)



昔は馬が大切にされた。旅の安全、死んだ馬の供養などのために石仏が祀られた。左側のもは文化3年(1806)右側は、明治37年(1904)に建てられている。この南側に今は涸れているが清水が湧き出し、旅人や馬の休憩場所があった。

⑦馬頭観世音(上宿)



昔は馬が大切にされた。旅の安全、死んだ馬の供養などのために石仏が祀られた。正徳4年(1714)石屋坂のものより百年ほど古い。道しるべとして(右側)駒場村・落合村・茄子川村(左側)中村・手加野・粕谷甚七とある。粕谷は牛馬医。

⑧馬頭観世音(西ヶ丘)



昭和2年(1946)から昭和8年まで西山に「競馬場」が開設されていた。競走馬の安全を願って「中津乗馬倶楽部外有志」が馬頭観音を建立した。東側の馬頭観世音像は文化14年(1817)とあり苗木道にあったものをいっしょに祀ったものと考えられる。

⑨ 馬頭観音(23区)



昔は農耕や運搬も馬に頼ることが多く、鞍岩の道路は急坂道なので人馬一体でないと荷車が登れなかった。文政3年(1820)人々は馬頭観音を祀り馬に感謝し村中安全を祈願した。

⑩ 双頭一身道祖神(上宿)



文化13年(1816)建立。市指定文化財。悪魔を払い旅人の安全を守る神。男女別々の頭部をもち、肩から足元にかけて一体となっている道祖神は県下は、もとより、中部圏にも類を見ない。いつのまにか縁結びの神となって、相愛の男女が願をかけるようになった。

⑪ 大乘妙典(上宿)



宝暦6年(1709)建立。大乘妙典とは人々を迷いから悟りの世界に導いてくれる教えを記した経典。妙法蓮華経のこと。この経典を一定回数読誦したときの記念に建てたもの。大乘妙典読誦記念碑。

⑫ 血場神天王(上宿)



安永3年(1774)建立。馬の首や足のうっ血部を針で切開し、悪い血を抜く場所を「血取場」といい、清めるために血場神天王を祀ったものと言われる。中津地域に16カ所確認されている。多くの碑に「白楽粕谷甚七勝房」とあるが、白楽とは牛馬医・獣医のこと。

⑬ 西国三十三観音(上宿)



西国三十三箇所の観音菩薩を巡礼参拝すると、現世で犯したあらゆる罪業が消滅し、極楽往生できるとされる。日本で最も歴史がある巡礼行。台石に11人の名がある。講を組んで資金を貯め参拝し功德を皆に分け与える意味で建立したものだろう。

⑭ 木造烏枢湊摩明王立像(松源寺内)



「ウスシマミョウオウ」市指定文化財。種々の顔料で彩色され、忿怒形で火炎光背がある。苗木雲林寺から廃仏毀釈の折に手賀野の松源寺に移された。様式から江戸時代中期の作と推定。「一切の汚れを焼き尽くす・不浄を清浄と化す」神力を持つと言われる。

⑮ 鞍岩(23区)



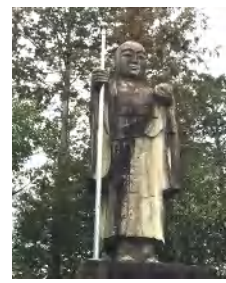
岩の形が馬具の鞍に似ていることからこの名がついた。鞍の姿をした奇岩としては、形・大きさとも日本一と言われている。

⑯ 会所沢のシデコブシ群生地



花びらが神道で使われる「シデ」に似ているのでこの名がついた。市指定の天然記念物。自生個体群は絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。日本固有の種で東海地方の一部に分布。県内では東濃地方に多く群生地が確認されている。西地域では、会所沢池北西に群生している。

⑰ 山王寺(桃山)



中津の駅前で旅館を営んでいた徳増コサクは、大正12年(1923)の関東大震災の被害に心を痛め、中津付近に新四国八十八カ所霊地をつくろうと思い立ち、多くの人に呼びかけ実現させた。桃山の本部に弘法大師・三十三観音を安置した弘法堂を建て、後に山王寺となった。

⑱ 善光寺(桃山)



曹洞宗・大岩山善光寺。飯田の元善光寺から、中津町の旅館組合の人たちが迎えたもの。初めは中津高校の下、扇薬師のそばにあったが、道路工事にかかって、昭和5年(1930)大岩へ移った。現住職が4代目で、田立の禅東院の住職が兼務。初代から3代目までは、女性の住職だった。

⑲ 福昌寺(大道上)



曹洞宗東光山福昌寺。薬師瑠璃光如来を本尊とする。木曾の豪族、千村平右衛門良重が寺を開き、歴代住職を大井町長國寺より迎えた。元和元年(1615)に良重から福昌寺に対して桃山に寺領二反を薬師堂地として永代寄進。それが、今の大岩薬師である。

⑳ 松源寺(手賀野)



臨済宗妙心寺派円通山松源寺。寛永元年(1624)山村甚兵衛の家臣堀尾作左衛門一成が寺を開き、木曾福島に興善寺五世桂嶽を迎えて駒場に開山。寛永3年(1626)今の場所に伽藍を建立し移転した。駒場には寺の名前が字名として今も残っている。

㉑ 大岩薬師(桃山)



駒場村の領主、千村平右衛門良重の寄進状(元和元年(1615)が福昌寺にある。大岩薬師の本尊は立ち姿で、右手は与願の印、左手に薬壺を持っている。古くから信仰を集め、祈願所に適した閑寂な環境と相まって、消災除厄万病平癒の霊場としてお参りする人が絶えない。

㉒ 真木庵(大平)



松本不識・水野大観は、一尊如来教の尼僧で大平の地に「真木庵」(しんぼくあん)という庵を結んで昭和12年から昭和50年ごろまで活動した。教祖きのは、享和2年(1802)突如として神がかりになり、金毘羅大権現が天降ったと言い、如来の教えを説き続け、一尊如来教を興した。

㉓ 津島神社(津島町)



「牛頭天王祠」が祀られ、祭神は「素盞雄命」。疫病(伝染病)農村では害虫・稲虫などを退治する神様である。主な行事は、元旦祭・御開扉(おみと)祭・例大祭・ぎおんば・新生児祈願祭・七五三祈願祭・新穀感謝祭・除夜祭である。

㉔ 津島神社(桃山公園)



「牛頭天王祠」が祀られ、祭神は「素盞雄命」。疫病(伝染病)農村では害虫・稲虫などを退治する神様である。地域をお守りする神様として桃山公園内にある。毎年8月14日に祭礼が行われる。

㉕ 津島神社(手賀野公園)



「おたちゅう様のとこへ津島様のお札がひらひらと降ってきたげなもんで、そこへ津島様を祀らした。(慶応3年・1865年)」「(安江かつ氏談)お札の降下、ええじゃないかの狂乱踊りは倒幕派志士が計画的に仕組んだものという。昭和57年(1982)に公会堂から手賀野公園に移された。

㉖ 諏訪神社(斧戸)



天正検地の折に駒場村から独立した手金野村がお祀りしていたお稲荷さんが荒廃していたため、寛永5年(1628)岡本喜兵衛が再興。五穀を司る「宇氣母智神」を祀ったもの。御神木、夫婦杉が本殿正面に並立し樹齢450年、手賀野の産土神様で、神々しい雰囲気漂う。

②⑦青木稲荷(青木)



福昌寺の和尚が、文化12年(1815)京都伏見の稲荷大明神の御分霊を迎えたのが始まり。その後荒廃したが、明治の末、この地内に住む「まあさん」という人には狐が乗り移るので、祈禱を頼むと願い事がなんでも叶う」という評判が広がり、参拝者が急増し拝殿もできた。

②⑧秋葉神社(桃山)



桃山区内に火災が多発したことがあり、火難除去を願い本宮秋葉神社から分霊され設置された。毎年、3月18日に祭礼が行われている。大岩薬師の東側にある。

②⑨秋葉神社(青木)



過去に何度も大火に遭ったので、火の神様としてあがめられていた遠州の秋葉本山から守り神としてこの地に迎えた。享保17年(1732)と刻まれているので、当地の大火はその頃だと考えられる。祭神は大之迦具土神。

③⑩秋葉神社(手賀野公園)



棟札の古いものは天保2年(1831)の金幣奉納は庄屋岡本利助、天保10年(1839)の社再建は庄屋吉田小左衛門であった。昭和48年の道路工事で現在地に移った。その時、屋根を銅板に葺き替えている。

③⑪高崎神社(桃山公園)



高崎(タカハシ)神社。魚鳥獣の供養と、料理道に精進する人々の守り神として祀られている。包丁の供養をする包丁塚が隣接してある。当初苗木に祀られていたものだが、「鉾物博物館」建設に伴って、桃山に移された。

③⑫女夫岩神社(桃山公園)



伝承を守り、家庭円満・安産を願って、春の大祭は特に盛大に行われる。イザナキ・イザナミの神が自らの愛の象徴とし、後世の人々のため創られたといわれる。「男の根岩 女の陰石にきほえとも 道をへだてて合わなくもあわれ」と歌人・吉野秀雄が詠んでいる。

③⑬洲原神社(西山津戸)



昭和初期に原官兵衛が本宮・諏訪神社(お洲原様)からこの地に迎えた。五穀豊穰、家内安全、健康増強を願い毎年10月の第三日曜日に祭礼が行われる。

③⑭御嶽神社(星ヶ見)



五穀豊穰・家内安全・健康増強を願い、大野安兵衛(現在4区在住)が、本宮・御嶽神社から分霊していただき迎えた。毎年3月の第3日曜日に祭礼を行っている。

③⑮御嶽神社(阿寺城跡)



社は、阿寺城のあった「蘭丸山」の頂にある。斧戸の諏訪神社の小社5社の一つ。祭典は現在ではまとめて4月15日に行われている。

③⑥金刀比羅神社(星ケ見)



五穀豊穰・商売繁盛・家業繁栄を願って、毎年4月の第1日曜日に祭礼を行っている。祭主は、西宮神社の馬島宮司。共栄区が当元を行い、参加者は、3区・松源寺区・後田区・大峡区の区長と地元市会議員。

③⑦金比羅神社(手賀野公園)



金比羅様は航海の安全を守る神として船人が最も尊崇する神様で、四国琴平の金比羅様が最も有名。この社の一番古い棟札は文政5年(1822)庄屋岡本利助とある。昭和48年に手賀野公園に移し新築した。

③⑧猿田彦神社(諏訪神社)



「みちひらきの神様」として敬われている。安政4年(1857)の建立。「猿田彦大神の字を書いた人は、阿木からおいでた小助様(直重)やと聞いています」(市川志賀氏談)

③⑨山の神(松源寺区)



区内の安全・安心・無病息災・繁栄を願う神事・参拝を行い、終了後クラブにて直会を行う。旧3区時代から行われ、年末年始には、お餅お神酒を供えた。

④⑩山の神(会所ヶ丘区)



お祀りの目的は文化を伝承すること。旧暦2月7日に朝山、10月7日に夜山を行う。大正13年に設置された。

④⑪山の神(6区)



五穀豊穰を願い「山の神」を祀った。毎年3月と10月の月初め亥の日にお祭りがある。早朝火を焚きそれを合図に皆がお神酒と肴をもって集まり参拝し、お神酒を頂く。

④⑫山の神(上巾)



八幡様で明和4年(1767)再建の棟札がある。9月29日のお前堂のお祭り(恵那神社)の時お参りしとる。(安藤敬介氏談)年2回春と秋に氏子が集まりお祭りをしている。

④⑬山の神(小向井)



元文3年(1738)氏子の安泰、そして繁栄と幸福を願って創建された。御神体として天白様が祭られていることを、昭和3年の山之神崇敬者記録の中に記されている。年2回春と秋に氏子が集まりお祭りをしている。

④⑭山の神(手賀野西山)



棟札に曰く。天明8年(1788)再立。「天下泰平、国土安穩、願主家運長久、子孫繁栄を願う」安政6年(1859)。明治13年(1880)再建。「田の神様、豊作の神様として5〜6組に分かれて当元を決めて一重持ち寄り春に祭をした。」(岡本博明氏談)

④⑤水神様(6区)



いつ祀られたかは分からないが、数百年前から現在の場所に祀られているという。その証拠が大杉である。また文化5年(1804)の大水害で川上より流されてきた墓石が据えられていることから、この水神様の古さが分かる。

④⑥水神様(大平)



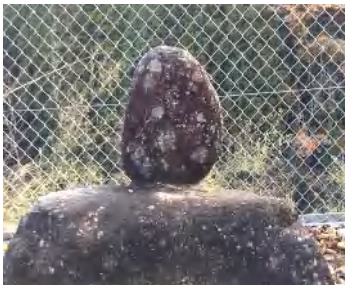
大平市営住宅の生活用水を確保するため、清水が出る場所に井戸を掘り、ポンプでタンクに一旦貯め、各家庭へ水を供給した。水源の守護神として水神様を祀った。毎年4月第一日曜日に祭を行っている。この簡易水道は上水道が整備される昭和50年代まで利用された。

④⑦水神様(上宿)



上宿は昔から水が乏しいところで明治33年に農業用水は確保できたが、飲料水は数少ない井戸をみんな利用していた。昭和11年に駒場公営事業費と借入金と住民の労力奉仕で中津川市最初の簡易上水道を完成させた。それを記念して水神様が祀られた。

④⑧水神様(斧戸浄水場横)



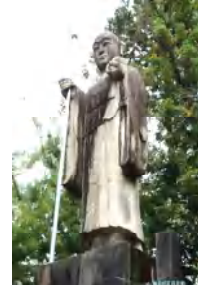
江戸末期、中津川を水源とする手賀野上用水・上井(うわゆ)が切れた時の補助用水として斧戸沢から用水が引かれた。用水と水害被害から地域を守るためにこの水神様が祀られたのではないかと。昭和30年(1955)7月15日現在の位置に移された。

④⑨風の神(共栄)



恵那追分の信号から市民病院に行く坂を上り切った四つ角から西山倶楽部方面へ200mほど進んだ左側の林の中にコンクリート造の祠がある。昭和の年代が読み取れる。

⑤⑩大弘法様(山王寺)



徳増コサクは大きな弘法大師の石像を建立しようと石材をあちこち探したが見つからなかったところへ夢に大師が現れ「戌亥の方近きに在り」とお告げがあり、巨大石像に適した石材が見つかったと言われている。大弘法様の台石には「昭和13年(1938)7月31日請負師本巣郡又丸朝井幸作彫ったのは、岡崎の「寿山稲垣清市先生」34歳とある。

⑤⑪古橋源蔵顕彰碑(桃山公園)



古橋源蔵翁は、農業改良・町作りなどに私材を投じ中津町のために尽くした。中津町は人口も多く、車馬の交通が盛んで悪疫流行が多かった。中津町衛生組合長であった翁は、衛生事業に力を入れ、病人の隔離と家の消毒に日夜奔走した。そのため町の人々から感謝され、官庁より賞も受けた。

⑤⑫弘法様第8番(善光寺)



⑤⑬弘法様第62番(手賀野公園)



⑤⑭弘法様第27番(山王寺)



⑤⑮弘法様第64・65番(松源寺入口)



⑤⑥ 弘法様第66番(手賀野公園)



⑤⑦ 弘法様第67番(会所ヶ丘)



⑤⑧ 弘法様第68番(西小バス停東)



⑤⑨ 弘法様第69番(手賀野西山)



⑥① 弘法様第70番(長屋宅裏)



⑥② 弘法様第79番(桃井建設西)



⑥② 弘法様第80番(青木稲荷西)



⑥③ 弘法様第81番(上宿一里塚前)



⑥④ 弘法様第83番(青木稲荷北)



⑥⑤ 弘法様第84番(福昌寺入口)



⑥⑥ 弘法様第85番(市岡製材所内)



⑥⑦ 弘法様第86番(津島町)



⑥⑧ 弘法様第87番(大岩薬師西)



⑥⑨ 弘法様第88番(大岩薬師東)



西地域の弘法様

関東大震災の惨状に心を痛めた徳増コサクは「四国八十八カ所の霊地」を作ろうと呼びかけた。それに応えた弘法堂が西地域にも多数ある。西地域にある弘法堂は以下の19カ所である。弘法堂には弘法様と本尊が安置されているが本尊の名のみを挙げている。

- ・8番 千手観音(善光寺)
- ・27番 十一面観音(山王寺)
- ・62番 毘沙門天(手賀野公園上)
- ・64番 阿弥陀如来(松源寺入口)
- ・65番 十一面観音(同上)
- ・66番 十一面観音(手賀野公園西)
- ・67番 十一面観音(会所ヶ丘)
- ・68番 阿弥陀如来(西小バス停東)
- ・69番 十一面観音(手賀野西山)
- ・70番 馬頭観音(長屋宅裏)
- ・79番 聖観音
(会所ヶ丘より上原への別れ道)
- ・80番 十一面観音(青木稲荷西)
- ・81番 千手観音(上宿一里塚前)
- ・83番 聖観音(青木稲荷北)
- ・84番 千手観音(福昌寺入口)
- ・85番 聖観音菩薩(市岡製材付近)
- ・86番 十一面観音(津島町)
- ・87番 聖観音(大岩薬師西)
- ・88番 薬師如来(大岩薬師東)

